

二川宿を彩る街道風俗絵巻

二川宿本陣まつり

大名行列

豊橋市立二川南小学校長 神藤晴康

二川地区の活性化を図るため住民全体で繰り広げられる伝統行事。その舞台となる二川宿は、東海道筋で二か所しか残されていない本陣を有している。



二川宿本陣資料館

近隣小学校の6年生児童による鼓笛隊や手踊り、奴踊りを交えた250名を超える人が参加する。より華やかな江戸時代の風物絵巻とするため、奥方・姫・侍女・腰元などの女性も参加する。また、行列の披露だけでなく旧東海道沿いのあちこちで和太鼓や津軽三味線の演奏、梯子乗りの披露などの「観る&聴くイベント」、うまいもの販売や竹藪市などの「食べる&買うイベント」といった様々な催しも行われ、二川地区全体で盛り上げている。

二川宿本陣まつり 大名行列

二川宿本陣まつり「大名行列」は、本陣資料館の開館した平成3年から二川地域の活性化を図るため毎年開催され、来年度には30回を迎える伝統ある行事である。今年度は11月3日に華やかに開催された。晴天に恵まれ、2万3千人という多くの観客を迎えた。これは、吉田藩主で名君と言われた松平伊豆守信明の大名行列を、旧東海道二川宿一帯で再現するものである。松平信明は、江戸時代中期の天明8（1788）年に老中となり、松平定信の寛政の改革を支えた。一方で將軍家斉の贅沢なふるまいを戒め、大名や武士の規律を正したという逸話が伝えられている。また、ロシア使節ラクスマンが



根室に來航した多難な時期に老中首座を引き継ぎ、幕府のかじ取りを行ったことでも知られている。本家の大名行列は人数制限があり、5万石〜10万石の大名は167人と決められていた（吉田藩は7万石）。しかし、現在の「大名行列」は、公募で選出された雅姫・琴姫、6年生児童が扮する若殿や妹姫、近習・侍女と二川地区の住民による100人余りの本隊、



められていた（吉田藩は7万石）。しかし、現在の「大名行列」は、公募で選出された雅姫・琴姫、6年生児童が扮する若殿や妹姫、近習・侍女と二川地区の住民による100人余りの本隊、

これら一連の大イベントは、実行委員会を中心とする約500人ものスタッフに支えられている。なかでも二川中学校の2年生は、行列・ステージイベントへの参加、「本陣茶屋」の企画運営、「ボランティアガイド」に取り組み、貴重な体験をしている。学校側も生徒たちが自分の住んでいる地域に対して愛着をもち、やがて二川に帰ってきたいという思いを強くもつことが重要であると考え、ESDの取り組みの柱の一つに位置づけている。

二川宿

宿場としての成り立ち

二川宿は江戸日本橋から数えて33番目、遠江国より三河国に入って最初の宿場であった。慶長6（1601）年、

徳川家康が東海道に宿場を設置した当初からの宿と言われており、当初は東西に12町（1.3km）ほど離れた二川村と大岩村の2村で1宿分の役目を果たしていた。しかし、離れていたため不都合で、参勤交代などで交通量が増える」と行き詰ってしまった。そこで、正保元（1644）年に両村は現在地に移動し、二川と加宿大岩からなる一続きの宿場町となった。

戦災の被害を受けなかったため、東海道筋で2か所しか残されていない本陣の建物と江戸時代の宅地割が宿場町の面影を残す。

大名の宿 二川宿本陣

昭和60年、旧本陣のご当主馬場八平三氏は、全国的にも貴重な歴史的建造物である本陣遺構の永久保存と活用を願って屋敷地を豊橋市に寄付した。豊橋市では、これを受けて昭和62年に二川宿本陣を市史跡に指定し、改修復原工事に着手し、本陣建物が最も整備されていた江戸時代末期の姿を再現した。明治以降、建物は大きく改造されたが、残された間取り図や木材の痕跡調査などにより、大名・公家が宿泊した頃の

姿に復原した。同時に二川宿ならびに近世の交通に関する資料を展示する「二川宿本陣資料館」を開館した。

庶民の宿 旅籠屋「清明屋」

本陣東隣に隣接する旅籠屋「清明屋」は平成12年に倉橋家より寄付された。旅籠屋とは、江戸時代に盛んになった1泊2食付きの宿屋のことである。本陣の東隣に位置することから、大名行列が本陣に宿泊する際に、上級武士の宿泊所としても利用された。改修復原工事によって主屋・繋ぎの間、奥座敷などが再現され、公開されている。

商家「駒屋」

商家「駒屋」は、主屋・土蔵など8棟の建物からなり、二川宿で商家を営むかたわら、問屋役や名主などを勤めた田村家の遺構である。豊橋市内に数少ない江戸時代の建造物で、当時の商家の一般的な形式を良く残していることから、平成15年に市指定有形文化財となり、すべての建物について江戸時代から大正期の姿に改修復原された。商家「駒屋」の公開により、二川宿は本陣・旅籠屋・商家の3か所を見学できる日本で唯一の宿場町となった。



本陣・上段の間



商家「駒屋」外観



【二川宿本陣資料館】 月曜日休館  
豊橋市二川町字中町65番地  
TEL0532-41-8580  
取材協力・資料提供 二川宿本陣資料館

都市景観大賞受賞

二川宿では、残された本陣、旅籠屋、商家を景観の核として無理のない景観形成基準を官民で共有している。長年継続して取り組んできたことにより、旧街道のまち並み景観や瀬古道の路地空間が再生されてきた。一方、住民団体やNPOも8団体あり、地区の住民全体で取り組む「大名行列」や「灯笼で飾ろう二川宿」等のイベント、さらに、つるし飾りや一輪挿し等が歴史的な街並みにアクセントを与えている。こうした行政や住民団体、大学がそれぞれの立場や専門性を生かした旧宿場の風情ある景観形成が評価され、平成28年度には10団体共同で都市景観大賞の表彰を受けた。